

舞鶴赤れんがパーク(京都市舞鶴市)

作成時点：2026年1月

倉庫 ▶ 複合施設

赤れんがパーク官民連携型賑わい拠点創出事業

基本情報



写真出所：舞鶴市

位置図

京都市舞鶴市字北吸1039番地の2

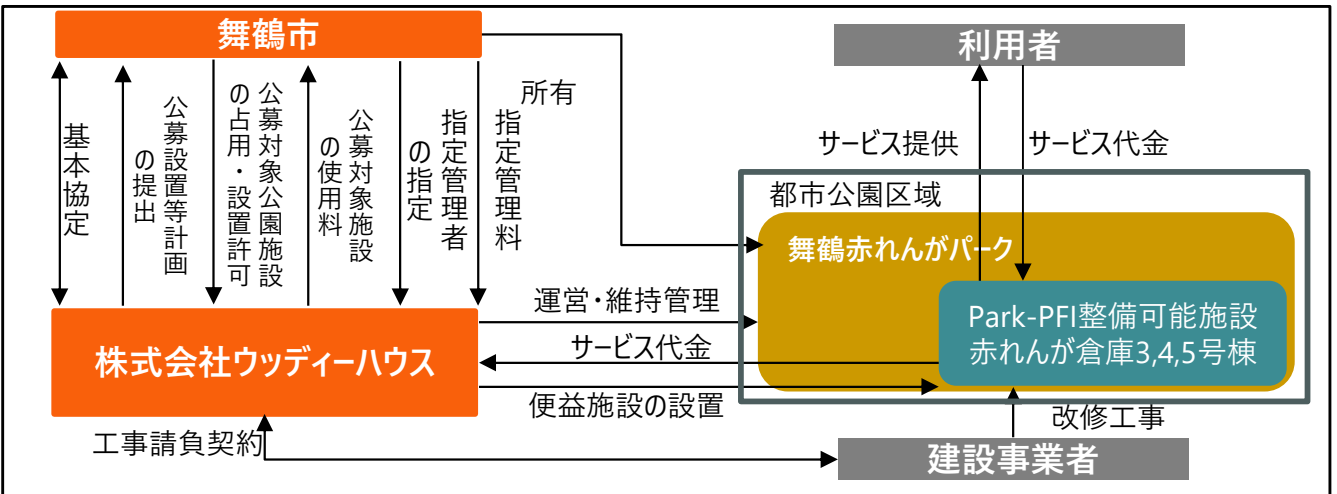


出所：「航空写真」(地理院地図/国土地理院)を事務局にて一部加工して作成

掲載内容に関する問合せ先
舞鶴市 企画政策課
TEL：0773-66-1042 (直通)
Email：plan@city.maizuru.lg.jp

事業主体	舞鶴市 (人口：73,893人 ※2026年1月現在)
事業手法	指定管理者制度、公募設置管理制度 (Park-PFI)
民間事業者の業務内容	・ 運営・維持管理業務
事業期間	20年間 (2022年4月～2042年3月) ※認定計画で20年であり、指定管理は10年で、10年後に非公募で認定計画提出者を審査し、指定管理者の指定を行う予定
事業費等	・ 施設改修費 約150百万円 ・ 指定管理料年額 約36百万円
活用した補助金	・ 民間資金等活用事業調査費補助事業補助金 約10百万円
事業者	株式会社ウッディーハウス
事業経緯	<ul style="list-style-type: none"> 2021年07月 公募開始 2021年11月 事業者選定 2022年03月 基本協定の締結 2022年04月 公募設置等計画の認定 2022年04月 指定管理者の指定 2022年04月 リニューアルオープン

事業スキーム図



舞鶴赤れんがパーク(京都市舞鶴市)

赤れんがパーク官民連携型賑わい拠点創出事業

検討経緯

- 市は2012年に行政中心で運営する舞鶴赤れんがパークをグランドオープンし、同年策定のまいづる観光ブランド戦略において観光戦略拠点に位置付けた。また2015年に赤れんが周辺等まちづくり構想を策定し、観光戦略拠点である舞鶴赤れんがパークを中心に、歴史や文化、地域資源等を活かしたまちづくりを進める方針を示した。
- 市は舞鶴赤れんがパークの賑わい創出とブランド向上を図るため、2017年と2018年に内閣府の調査費補助を活用し、赤れんが倉庫群の民間活力導入可能性調査を実施した。
- 2021年に「赤れんがパーク官民連携型賑わい拠点創出事業」の公募を実施し、舞鶴赤れんがパークでイベント実績のある地元企業の株式会社ウッディーハウスを選定した。
- 1号棟は博物館、2号棟は市政記念館としたまま、3,4,5号棟は民間事業者による活用として2022年4月より舞鶴赤れんがパークの新たな運営が始まった。

取組のポイント

- 民間活力導入可能性調査を行うにあたって、事業手法検討などの事業化検討の業務委託と並行し、市が直営で先進自治体へのヒアリングなどの調査を行うことで、低予算での調査を可能にした。
- 指定管理者制度により赤れんが倉庫群全体の運営・管理と併せて、赤れんがパークは都市公園区域内にあるため、Park-PFIを用いて、赤れんが倉庫群（3,4,5号棟）内への公募対象公園施設を設置した。これによって、赤れんが倉庫群（3,4,5号棟）において民間事業者が収益施設を設けることが可能となり、市はその使用料収入を得ている。

得られた効果

- 海上自衛隊ブースやお土産を販売する赤れんがSHOPなど多くのテナントが入ったことで観光名所として賑わっており、年間94万人以上の来訪者を達成した。また、観光による経済効果や地元出身者のUターンによる雇用創出を実現した。
- 地元企業が運営を担うことにより、同社と繋がりのある地元企業の施設内への出店やイベントへの出店が促進され、地域経済の振興と賑わいが創出された。
- Park-PFIの導入により、事業者が設置した公募対象公園施設で得た収益が園路や広場など周辺の公園整備・管理に還元されている。

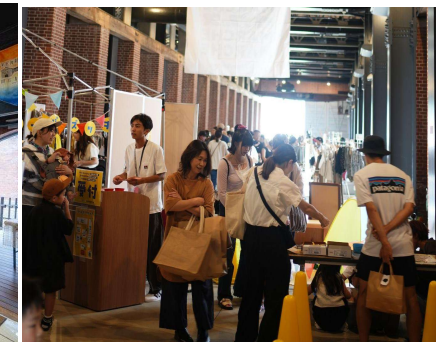
■ 利活用前



■ 利活用後



(事業者により整備されたテラスで賑わう様子) (海上自衛隊ブース)



(お土産が並ぶ赤れんがSHOP)

(イベントの様子)